

平成 30 年度 地域における男女共同参画促進を支援するためのアドバイザー派遣事業
第 2 回地域リーダー養成講座「先輩リーダーに学ぶ！地域で人気の取組み・人気の企画」

事業報告書

日時	平成 31 年 2 月 16 日（土）14:00～16:00
目的	地域活動における男女共同参画を推進するために、本講座では、地域リーダーとしての役割について学ぶ。
対象	地域リーダーを目指す方、関心のある方
講師	繁多川（はんたがわ）公民館 館長 南 信乃介 氏
会場	沖縄県男女共同参画センターていりる 3 F 研修室 1・2
参加者数	11 名 （ 女性 7 名 ・ 男性 4 名 ）
講演内容 (次第)	<p>「先輩リーダーに学ぶ！地域で人気の取組み・人気の企画」</p> <p>法人のミッション（繁多川公民館指定管理者 NPO 法人 1 万人井戸端会議）を紹介</p> <p>●動画から問題×問題を見つめる</p> <p>GESHUKU プロジェクト（孤立する 1 人暮らしの高齢者と経済的に厳しい離島の 15 の春）</p> <p>私たちの考える現状認識</p> <p>協働する様々なポジション</p> <p>●すぐりむん※1 認定までの道のり ※1 優れている者</p> <p>あたいぐわー※2 プロジェクト事例紹介 ※2 家庭菜園</p> <p>協働する様々なポジション（リーダー／コーディネーター／マネージャー）</p> <p>公民館のイメージ</p> <p>地域の聞き取り</p> <p>行事の復活</p> <p>市民主体の地域課題への取り組み</p> <p>公民館と小学・中学・高校との連携</p> <p>居場所作り</p> <p>ジュニアボランティア</p> <p>舞台演劇</p> <p>●海外との交流／ここにしかない資源（注目される資源をみつめる）</p> <p>インターネット上の文化交流</p> <p>日本の公民館が改めて考えたい視点</p>
講演内容 (概要)	<p>●法人のミッション 公民館の館長／NPO 法人 1 万人井戸端会議代表理事として</p> <p>那覇市の繁多川公民館館長とその公民館の指定管理を受けている団体の代表理事で、法人のミッションに基づいて、地域づくりを行っている。地域のリーダーの皆さんと共に活動しながら、地域の高齢者や子どもを含めた地域を引っ張っていく人材。</p> <p>繁多川公民館は地域の自治会の公民館ではなく、那覇市の委託の予算で動いている。</p> <p>NPO 法人のミッションとして、那覇市の小学校校区が 1 万人（子どもが歩いて通える距離）身近なところで出来る持続可能な街作りの必要性を感じ、社会教育を視点を活動を行っている。</p> <p>●動画から問題×問題を見つめる（繁多川の取組みを動画で紹介）</p> <p>繁多川公民館の取組み「GESHUKU プロジェクト」進学で離島から出てきている高校生を自宅</p>

で受け入れている。高校生と一緒に応援することで、学校の先生やバイト先の大人以外に出会える場が広がり、一人暮らしの高齢者の見守りにも繋がり、地域の中で役割ができ、地域で頑張っている高校生を応援する事で、生活にハリを生み出すことができていると紹介した。

- ・講座やプロジェクトを考える時、人を集める講座は簡単に企画できる（町歩きや歴史関連など）が、人が集まる講座が必ずしも地域の活力に繋がるとは限らない。講座を考える時に大事にしている事は、地域の活力となり、誰かの困りごとが解決するような講座を大事にしていると話した。

啓発講座（選挙への参加や環境問題など）人の意識を変えたいと思うような講座に参加する人はすでに意識が高く、問題を多くの人と考えたい！と思った時には、意識が薄い人へ届ける為に、講座事業を持っていく！すでに人がいるところで講座事業を行う必要がある。たとえば、学校教育への講座などを紹介した。

公民館は、文科省の管轄であり、地域の活性化・課題への取り組みを促進しているが、社会保障費が上がり、税収が下がるため、社会教育へ掛ける予算を取ることが難しくなる懸念がある。

日本の GDP と年間の労働時間などを紹介し、外国と比較して、生産性が低いため、地域予算が続かないのではと予想され、地域でお金を生み出すことが必要であり、お金だけでなく人と人のつながりで豊かさを生み出す事が重要と伝えた。

- ・協働する様々なポジション

現場のリーダー「できることを始めてみよう」が合言葉のボランティア型のリーダー。地域社会に貢献しやすいようにつなぎ、学びあいを促進し、進行するコーディネーター型リーダー。地域社会のありたい姿から資源や課題を分析し、最適化する仕組みをつくるマネージャー型リーダー。3種類のリーダーを紹介し、それぞれのポジションで習得するスキルが違う事を紹介。

- すぐりむん認定までの道のり

あたいぐわープロジェクトを企画する前に（聞き取り調査）

公民館はよく閉まっている。公民館は何しているかわからない、というイメージや声が多く、繁多川の場合、地域の話の聞き取りから3軒に1軒が豆腐屋で合った事が分かった。豆腐作りが盛んであった事で、取り組みが始まった。在来大豆を復活させて昔ながらの豆腐作りを行った。

戦後の復興が豆腐作りであり、地域の人たちを動かす原動力となったと紹介した。

地域で活躍する高齢者（経験知識を地域に還元している人材）を「すぐりむん※1認定」していく事で、地域・学校でも能力発揮できる仕組みづくりを行い活性化していると話した。

地域主催行事の復活として、若水汲み（正月の行事が子ども会の活動として復活）

- ・カーヒラシー（井戸清掃）高齢者が率先して、井戸清掃にあたり防災活動に利用でき、飲めるほど綺麗になった。

- 公民館と小学・中学・高校の連携

- ・小学・中学との連携

小学校で豆腐作りの授業を実施、3つの小学校の総合学習に大豆栽培から、豆腐を作る授業を行っている。地域の学びは学校の先生から学ぶだけでなく、地域の方から学ぶ事によって、

子どもたちの興味関心を高める事ができる。学校と地域との繋がりが強くなっていき、年間2000人の子ども、保護者、地域の人に関わるプロジェクトに成長したと紹介した。

・高校との連携

学校で問題を起こし出席停止となった生徒を1週間預かり、公民館の仕事（力仕事、掃除、地域課題や誰かの手助け）の中で、「ありがとう」と言われる喜びや、役に立つ事を経験してもらい学校へ戻す。

・ジュニアボランティア（ボランティアメンバーの募集）

学校と連携し、公民館の呼びかけで地域イベント、活性化につながる企画・運営を担う中高生を年間40名募集している。感謝状を発行し、進路の役に立つようにでもOKで、学校を卒業しても公民館との交流が継続していく。子どもたちが培ったコミュニケーション力がゆくゆくは仕事や地域に還元されるのではないかと、人材育成であると話した。

・子どもの居場所事業の紹介（プロジェクトからの収穫で夕食づくり）

食材を作って関わる人、一緒に料理を作って関わる人、余った野菜をバザー品として購入して関わる人がいる。地域内で予算を生み出して、利益を生む。社会教育は学び合いであり、依存ではない。無料で食べるのではなく、何かお手伝いをしてもらおうと話した。

・舞台演劇「島守のうた」

沖縄戦のストーリーを演劇にする（地域として伝わっている歴史を継承）

当時の行政と地域のストーリーを絡めて、ジュニアボランティアによって公演している。

●海外との交流／ここにしかない地域の資源（豆腐作り／戦争の話）

・5年前、沖縄で出会ったエジプト人から、エジプトは、アラブの春（民主化の流れ）で軍事政権をひっくり返し、民主化となったが、国づくりを経験したことがなく、日本の公民館は戦後、地域づくりの為に出来た経緯があるため、参考に公民館作りを学びたいと関わった。その中から、エジプトとインターネットを通して空手の演武披露会や沖縄でのハラル教室などを開催し互いの文化交流を通して学び合った。信頼できる日本のスキルと技術をもち、地域教育をされている公民館をやはり作りたいと、依頼があった。

海外のテレビ番組が長寿で知られる日本の中の沖縄で「繁多川の豆腐作り」について取材したことや、県外からは平和学習の場所として、ここにしかない資源が世界へ発信され、学びへと繋がる事を紹介した。

・日本の公民館が改めて考えたい視点

海外からは日本の公民館は社会教育の拠点として熱い視線を注がれているが、実は日本でも必要とされている事である。

①女性や子どもたちが活動できる場

②若い人のスタートアップになれること

③自分たちで社会をよりよくできるという自信を持てる場、実感を積み重ねることのできる場

・日本の公民館のクオリティは何か？

市民や政府間で信頼ある「日本」、敗戦を経て地域づくりを公民館が拠点として進めた実績を自覚する。果たして今、生活や日常を目に見えてよくし、自分の価値を高め、実現できる場となっているかなど、多くの課題が見えてきたと話した。

最後に、マルシェを通して、活性化をしながら、地域の人材を確保する場になっている。月1回、地域の中で課題解決のために、地域の人と話し合いをして、アクションをするプランを立てる地域の行動計画を立て、習慣を作るその取り組みを紹介した。

(自由記載欄より抜粋)

参加者の声

- ・今後の活動のヒントをたくさん見つける事ができました。
- ・繁多川の成功事例が想像以上で驚きでした。若い世代が地域を大切に思うようになる仕組みづくりも素晴らしいです。
- ・地域と一緒に企画を立ち上げ、その企画の成長をみまもり続ける。地域の人々との関わり合いがすごく大切だなと思った。
- ・今日の講義で学んだ事を、今後の生活で活かしていきたいと思いました。



写真



主催等

主催：沖縄県・(公財)おきなわ女性財団
共催：内閣府